

意見書（案）整理表

意見書（案）	発言要旨
<p><意見書（素案）の取りまとめ方針></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 項目ごとに、リード文として意見交換の概要を整理する。 ・ 委員の発言内容のうち、同様の意見は、一文に調整する。 ・ 発言内容の例示部分等は削除し、「意見書」の文体として記載する。 	
<p>1 意見</p> <p>盛岡市の新市庁舎整備について、市の関係部等で構成する「新市庁舎構想検討会議」の報告書（令和4年2月）や事務局から配付された資料を参考に意見交換を行いました。</p> <p>各委員から出された意見は、次のとおりです。</p> <p>なお、各委員から出された多様な視点での意見を整理したものであり、相反する意見もあることを申し添えます。</p> <p>(1) 新市庁舎整備の必要性</p> <p>新市庁舎整備の必要性についての主な意見は、次のとおりです。</p> <p>現市庁舎が抱える課題の解決や機能充実に向けて、新市庁舎の整備が必要であるという共通認識に至りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 少子高齢化や障がい者の視点から、現市庁舎は使いにくい部分がある。「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」における合理的配慮の点を含め、新市庁舎の整備を進めるべきである。 ○ 現市庁舎は、洪水浸水想定区域にもかかわらず地下に電源設備がある。庁舎のあり方や使い方の見直しなどを含めて、新市庁舎の整備を進めるべきである。 ○ 未来に必要な市民サービス機能など、現市庁舎の改修では対応が困難なため、新市庁舎の整備を進めるべきである。 ○ 施設の老朽化や現市庁舎の課題解決だけでなく、市庁舎に求められる新しい機能や役割の実現のため、新市庁舎整備が必要である。 ○ 新市庁舎整備の必要性の議論には、本庁舎建設後の分庁舎の設置経緯等の整理や検証も必要である。 	<p>1 意見</p> <p>(1) 新市庁舎整備の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市には（障害者差別解消法で）合理的配慮が義務付けられている。少子高齢化や障がい者の視点から、現市庁舎はバリアフリー等の問題があり、使いづらいため、新市庁舎の検討を進められたい。 ○ 現市庁舎は、洪水浸水想定区域にもかかわらず地下に電源系統がある。行政のあり方や庁舎の使い方の見直しなどを含めて、未来のためにも機能改善が必要であり、整備の検討を進めるべき。 ○ 未来に必要な市民サービスを市民が期待しており、それは建替でなければ対応できないものがあるので、庁舎整備の必要性を感じる。 ○ 老朽化やバリアフリーといった課題をクリアすると同時に、市民の憩いのスペースなど、市役所の新しい機能や役割を効果的に実現してほしい。市民会議の報告会を聞いて、老朽化に端を発した「新市庁舎整備の必要性」が新しい機能を求めるものにシフトしたと感じた。 ○ 新市庁舎整備の必要性の議論には、本庁舎建設後の分庁舎の設置経緯等の整理や検証も必要ではないか。

意見書（案）	発言要旨
<p>(2) 新市庁舎に必要な機能</p> <p>新市庁舎に必要な機能についての主な意見は、次のとおりです。</p> <p>防災拠点機能や環境に配慮した機能のほか、市民の交流の場といった新たな機能など、様々な意見がありました。</p> <p>◆ 新たな価値を生み出す庁舎</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これからの市の賑わいをリードする機能について検討されたい。 ○ 安心安全で、誰もが集いやすいといった市庁舎の役割を大切にほしい。 ○ 行政機能だけでなく、市民が自由に集まって交流できる機能を庁舎に持たせるべきである。 ○ 新市庁舎は、市民にとって、家庭や職場以外のサードプレイス（※）となるような、居心地の良い場所となるべきである。高齢者をはじめとする様々な人の孤立を防ぐことにもつながる。 ※サードプレイス：家庭（第1の場）でも職場・学校（第2の場）でもない第3の居心地の良い場所のこと ○ 子どもを連れて来庁する方のためのキッズスペースや、子ども食堂のような機能があったほうがいい。 ○ 市職員が子どもを預けられる職場保育所の設置を検討されたい。 ○ 市役所本庁舎は、市民に愛着のある岩手山や中津川など、盛岡らしさが感じられるような中心となる施設であるため、街を眺望でき、休憩できるような機能があってもいい。 ○ 市庁舎の整備は、市庁舎の機能の充実と行政の役割の深化が目的であり、市民の福祉に資するという目的を追求するべきである。 ○ 各種団体等にもフロアを貸し出す等、公民連携の形も検討されたい。 	<p>(2) 新市庁舎に必要な機能</p> <p>◆ 新たな価値を生み出す庁舎</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これからの市の賑わいをリードする機能についても検討されたい。 ○ 誰もが集いやすい建物であればいい。市民が集える大きなスペースがあれば観光にもつながる。安心安全で誰もが集いやすいといった市役所の役割を大切にほしい。 ○ 市民ホールが以前よりスペースがなくなった。市役所の仕事が増えて、その分押し込まれた結果、市民が自由に使えるスペースがなくなった。行政のためだけの施設ではなく、市民が集まって交流できる機能を庁舎に持たせるべき。 ○ 新市庁舎は、市民にとって、家庭や職場以外のサードプレイス（第3の場）となるような、居心地の良い場所となるべき。高齢者が多くなってきているが、孤立を防ぐ第一歩になるような気がする。 ○ 「高齢者の孤立を防ぐ」ということだが、高齢者をはじめ、子どもを含め、いろいろな人も含める必要があると思うので、「高齢者をはじめ様々な人」という表現がいいのではないか。 ○ 高齢者だけではなく、来庁する子ども連れの家庭のサードプレイスという意味でもキッズスペースは必要ではないか。 ○ 職場保育所というものがあるが、市役所の職員では、そのような需要はないのか。 ○ サードプレイスとして、カフェや食堂スペースという話が出てくると思うが、子ども食堂のようなサービスもあった方がいいのではないか。 ○ 市民にとって岩手山は非常に愛着がある。また、中心部には川が流れている。そういう盛岡らしさが感じられるような中心となるべき施設が市役所本庁舎である。本庁舎の高層階から街を眺望できるスペースがあり、食事ができるような場所があれば、単に手続きだけでなく、市民が集まるのではないか。 ○ 今回の計画は、市役所を移転することによって得られる機能の充実と役割の深化が目的である。計画において、主目的からずれないように市民の福祉に資する機能が充実することを追求していくことが重要である。活性

意見書（案）	発言要旨
<p>◆ 「盛岡のシンボル」となる庁舎</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市庁舎には、市民の交流の場になるなど、シンボリックな位置付けになるような新たな機能を期待する。 ○ 画一的ではなく、多様性に対応できる機能を有する庁舎としてシンボリックな存在となしてほしい。 ○ 歴史的風情や自然環境など盛岡らしい景観と調和した、多くの人が共感できるシンボルとなるデザインであることも必要である。 ○ 盛岡の気候にも配慮した設計・建築とすべきであり、業者選定に当たっては慎重に行われたい。 <p>◆ 防災拠点となる安全な庁舎</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害に強い、誰もが安心して利用できる庁舎を目指すべきである。 ○ 将来を見据えた防災上の持続可能性の点から、市役所内に大学や他市町村と連携する部署の配置が必要である。 ○ 耐震や免震の観点からも、低層の庁舎を検討されたい。 	<p>化を主目的にすると往々にして失敗する例が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事業者にとってワンストップにつながるメリットがあるので、各種団体等にもフロアを貸し出す等、公民連携の形も検討されたい。 <p>◆ 「盛岡のシンボル」となる庁舎</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市民が集まって交流できる機能を持たせた、市民のシンボルとなる庁舎となるべき。 ○ 海外の事例では、庁舎は交流の場であったり、結婚式場であったり、シンボリックな位置付けになっており、新たな機能を期待したい。 ○ 機能の部分で言えば、これまでのように画一的に大量の事務を処理するのではなく、多様性に対応できる機能が欲しい。 ○ 「盛岡のシンボル」となる庁舎については、機能性のシンボルか、見た目のシンボルかは、見た目のシンボルも必要と言える。盛岡に生まれて、盛岡に戻ってくるときに思い出す、心に刻まれるような建物という意味合いも持っているといい。 ○ デザインにシンボリック性を持たせると、雪等の影響を受けて、建物自体が脆弱になる部分があるのではないかと。有名建築家をお願いし、その人のオリジナリティが全面に出してしまうと、大丈夫かなと思う。 ○ 建築家のオリジナリティについては、後々困らないように作るよう依頼すれば、溶け込むような景観の建物というのは十分可能であると思う。 ○ みんなが認め合うようなデザインであるべき。また、盛岡らしい景観の一部になるように外観も大事にしてほしい。 ○ 以前、市役所の外壁に時計が設置されていて、バスを待っている際に、腕時計を持っているのに、よく眺めていた。札幌の時計台やロンドンのビッグベンではないが、そういった機能も必要ではないか。 <p>◆ 防災拠点となる安全な庁舎</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 洪水のニュースをよく聞くが、誰もが安心して利用できる庁舎を目指してほしい。 ○ 防災上の持続可能性の点から、各大学や他市町村と連携する部署が、新たに市役所に存在することが、将来を見据えた市役所となる。 ○ 平屋や低層は地震対策になる。土地が広く必要になるかもしれないが、高層よりも低層のほうが地震に強いと言える。

意見書（案）	発言要旨
<p>◆ 次世代の執務環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市行政DX（デジタルトランスフォーメーション）推進計画の成果をいかに高いレベルに上げて、新市庁舎に引き継ぐかが重要である。 ○ 窓口については、デジタル活用が効率的な分野とそれ以外の分野を分けて考える必要がある。来庁が必要な人と必要でない人の手続きを明確化し、検討の優先順位を考える必要がある。 ○ 時代とともに行政の役割や仕事の仕方が変わっていくため、デジタルへの柔軟な対応等、新しい機能に備えた可変性や多様性が必要である。 ○ 市職員が働きやすい職場環境という観点も必要である。行政機能のパフォーマンスや市民サービス向上のほか、継続的な職員の確保にもつなげるべきである。 <p>◆ 環境に優しい庁舎</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市庁舎自体のエネルギー収支をゼロにする「ゼロエネルギー」の観点から、ビル管理の見える化、ビル監視システムといった機能面の検討が必要である。 ○ ZEB（ゼロエネルギービル）など、建物の省エネ、再生エネルギーの導入と建物のデザイン性のバランスが重要であるとともに、気候風土に合った建物にすべきである。 ○ 2050年のゼロカーボン、カーボンニュートラルの目標に向け、建物からの温室効果ガス排出量を減らすために、低層や木造建築のほか、CLTの活用等について検討されたい。 ○ 市産材の使用については、木造化による耐用年数や持続可能性についても考慮されたい。 	<p>◆ 次世代の執務環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ DX推進計画の成果をいかに高いレベルに上げて新市庁舎に引き継ぐかが重要である。 ○ デジタルが当たり前となったときに、間仕切りとか、OAなどで柔軟な庁舎の環境というのが機能面で必要である。 ○ 市民会議では、デジタル技術の活用で、24時間365日対応にしてほしいという意見もあった。一方で市役所に行かない方が利便性を感じる人もいる。どういう方に市役所に来てもらい、どういう方にはデジタルで手続きしてもらおうかということをして、検討する必要がある。 ○ 時代とともに行政の役割や仕事のしかたが変わっていくため、新市庁舎には新しい機能に備えた可変性や多様性が必要である。 ○ 新市庁舎は長期に使われる建物で、市民の利用者以上に長時間、そこで働く市職員が働きやすい職場環境の整備ということからも、気候や風土に適した建物が大事である。 ○ 職員が働きやすい職場により、行政機能のパフォーマンスを高め、行政サービスとして市民や関連する方々に提供出来る状況ができることよい。また、優秀な職員が盛岡市に集まるように考えると、職員の環境は大事。 <p>◆ 環境に優しい庁舎</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 庁舎自体のエネルギーの収支をゼロにしようという話がある。ゼロエネルギーの観点から、ビルの見える化、ビルの監視システムといった機能面の検討が必要である。 ○ ゼロエネルギーの視点と合わせ、デザインと省エネのバランスや気候風土に合った建物であるべき。 ○ ドイツのフライブルグの市庁舎は、壁面全部が太陽光発電パネルとなっている。省エネではなく、デザイン性と聞いているが、建物の省エネ、再生エネルギーの導入と建物のデザイン性のバランスを取ることも重要である。 ○ 2050年カーボンニュートラルを掲げており、カーボンニュートラルの目標を達成するために建物からの排出量を減らすことは重要な視点である。市役所が機能と役割を果たせるのであれば、低層で木造やCLTとすることも選択肢となる。 ○ 市産材を使用して木造庁舎とする場合、木材にすることで建替の年数が延びるのかというのも持続可能性に関連し大事な観点である。

意見書（案）	発言要旨
<p>(3) 新市庁舎の規模 新市庁舎の規模についての主な意見は、次のとおりです。 分散している部署の集約や支所の役割のほか、デジタル化による規模への影響などについて、様々な意見がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 効率化の観点から、基幹的な部署は新市庁舎に集約するべきであり、都南分庁舎にある教育委員会についても検討されたい。また、集約後の部署の配置については、来庁者の動線にも配慮されたい。 ○ 庁舎の分散は不便であり、本庁舎に集約すべきだが、都南分庁舎や玉山分庁舎をはじめ、それぞれの地域性や住民の利便性を考慮した身近な支所機能充実の検討が必要である。本庁舎に行かなくても、支所で用が済むのであれば、それは住民の福祉に資する手法である。 ○ 新市庁舎の規模は、現状の情報（人口、職員数、業務のあり方や書類の数など）から算出するのではなく、人口減少やDXの推進等による将来の規模を想定した「規模の最適化」について検討が必要である。 ○ 庁舎の分散が非効率という考え方は、オンラインやワンストップの機能があれば、変わってくるということも考慮されたい。 ○ デジタル技術の進歩に柔軟に対応できるよう、幅を持たせた規模の検討も必要である。 ○ 駐車場の整備は、DXの推進による来庁者数の変化や、整備費用を考慮した検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ CLTは、工期短縮のメリットが大きい。高層の例がないなどの課題はあるが、検討の余地はある。新たな取組なので、国や県の補助金を受けやすい。 <p>(3) 新市庁舎の規模</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基幹的な部署は集約しないと効率が悪いため、教育委員会等の集約を検討されたい。また、庁舎の集約に当たっては、どのくらいのスペースが確保できるか整理してほしい。 ○ 庁舎の分散は、当時は便利だったかもしれないが、今はかなり不便。時間的にも経費的にも分庁舎は本庁舎に統合したほうが良い。ただし、都南分庁舎、玉山分庁舎は残すべき。 ○ 「都南分庁舎と玉山分庁舎は、残すべきである」とあるが、「議論を踏まえて」とか、「残すかどうかの議論が必要だ」という記載がいいと思う。「残すべき」とするのは、表現が強いのではないか。 ○ 都南分庁舎には、本来本庁舎にあるべき教育委員会や都市整備部がある。それが集約されるとスペースが空くので、そこに地域の方々が利用できるような機能が欲しい。部署を集約したら処分するのではなく、市民に還元できるような施設がほしい。 ○ 秋田県と仙台では、支所が充実している。本庁舎に来なくても、たいていのことは支所で用が済む。盛岡だけ本庁舎に来ないと用事が出来ないということが多い。新市庁舎をつくるということと、住民の身近にある支所を同じような機能を持たせて充実させるという、選択肢も政策として考えていく必要がある。 ○ 人口減少や業務のあり方の変化やDXの推進により紙が減っていくので、今の規模がマックスと言える。将来の負担を考えると規模を縮小できるかということを検討するべきであり、「規模の最適化」について検討すべき。 ○ 盛岡市が進めているデジタル推進計画は令和7年を区切りになっている。規模を考えた場合、今の人口、職員数、業務のあり方、書類の数を母数にするのではなく、令和7年までにソフト面が成熟したときの規模をどう読

意見書（案）	発言要旨
<p>(4) 新市庁舎の整備方法</p> <p>新市庁舎の整備方法についての主な意見は、次のとおりです。</p> <p>新市庁舎整備に当たっては、現在地での建替や改修よりも、移転新築が望ましいという共通認識に至りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 現市庁舎の現在地での建替では、防災面の課題や敷地面積の狭隘により、市民が求める新たな機能の追加は難しい。 ○ 整備方法の比較検討は、財政負担の軽減のみではなく、新たな価値を生み出すという観点が必要である。 ○ 新市庁舎整備に当たっては、まちづくりの観点から、空き店舗や空き家が多い地域の課題解決と組み合わせた都市の再生としての検討も必要である。 <p>(5) 事業手法と資金計画</p> <p>事業手法と資金計画についての主な意見は、次のとおりです。</p> <p>コストダウンとなる手法の検討や財政負担の軽減に関することなどについて、様々な意見がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市内経済の活性化や財政負担の観点から、地元の業者が市庁舎整備に関わることが重要である。 	<p>むかが大切である。市役所に人が来なくなれば駐車場の規模にも影響する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ オンラインやワンストップの機能があれば、庁舎が分散していても非効率という考え方が変わってくる。 ○ 市庁舎に来る人とデジタル化により来なくて済む人を分けて検討する必要がある。市庁舎に来なくてもいい方は、それで便利だと感じれば来てもらわないほうが市民のためになる。 ○ デジタル化等技術の進歩に柔軟に対応できるよう幅を持たせた方法を検討されたい。 ○ 駐車場の整備について、中心部になれば当然制約があるので、経費も含め研究する必要がある。 <p>(4) 新市庁舎の整備方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今の市役所の場所は、防災面のほか、面積的にも狭く、皆さんが満足するような機能を入れるには無理がある。改修という段階ではない。また、現在地での建替は難しい。 ○ 財政負担の軽減のみではなく、新たな価値を生み出すという観点が必要である。 ○ 盛岡市内で空き店舗や空き家のエリアが広がっていることから、そういうところを市庁舎の移転と組み合わせてまちづくりの一環として検討するのもありだと思う。 ○ 新市庁舎整備を、都市の再生に位置付けることが必要ではないか。 <p>(6) 事業手法と資金計画 （(5) (6) を入れ替え）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ できるだけ多く、盛岡市内の業者に新市庁舎の建築に関わっていただくことが重要である。市内経済の活性化につながり、ひいては財政負担という大

意見書（案）	発言要旨
<p>○ 盛岡の環境や風土に適した設計・建築が必要であり、建設後のメンテナンスの面でも、地元精通した事業者が担ったほうがよい。</p> <p>○ 新市庁舎建設に当たっては、建物の維持管理の容易さにも配慮されたい。</p> <p>○ 市民は、財政的な持続可能性について高い関心を持っており、丁寧な説明が必要である。</p> <p>○ 事業手法は、従来型にとらわれず、設計と施工を一体化した手法などのコスト面でのメリットも比較し、可能な限りコストダウンにつながる手法も検討すべきである。</p> <p>○ 新市庁舎に必要な機能の導入については、優先度と財政負担のバランスを検討すべきである。</p> <p>○ クラウドファンディングやネーミングライツなど、様々な資金調達方法が考えられるため、市庁舎施設の一部での活用の可能性について検討されたい。</p> <p>(6) 新市庁舎の整備エリア</p> <p>新市庁舎の整備エリアについては、「新市庁舎のあり方に関する市民会議」や本懇話会で出された意見を踏まえ、報告書で挙げられている3つのエリアを中心に、今後、市及び新市庁舎整備審議会での調査審議を経て、広く意見を聴きながら決定されることを求めます。</p> <p>なお、検討に当たっては、評価者の見方や立場による評価の視点のブレを無くすために、新市庁舎整備の目指すべき方向性となる基本方針を策定の上、方針に基づいた統一の評価軸を設定し評価する必要があります。</p> <p>評価軸及び考え方についての意見は次のとおりです。</p> <p>◆ 都市政策の視点</p> <p>○ 整備エリアは、市のまちづくりに関する様々な計画との関連性からも比較検討すべきである。</p> <p>○ 土地取得や面積など、コスト面だけでなく、今後の市のまちづくりの点で整備エリアを評価すべきであり、まちづくりの将来ビジョンを踏まえた評価項目があるべきである。</p> <p>○ 整備エリアにおいては、建物の建ぺい率や容積率を踏まえた検討が必要</p>	<p>きな課題を軽減できることにもつながる。</p> <p>○ 建築・設計は、できれば仙台以北の業者が望ましい。盛岡は寒冷地なので、冬場の窓の結露など盛岡の風土に適した建築・設計が必要であり、後々のメンテナンスを考えても、土地に精通した業者がよい。</p> <p>○ 市民は市のお金の使い方に厳しい目があり、財政的な持続可能性について、高い関心を持っている。丁寧な説明が必要である。</p> <p>○ これまでは、設計施工分離が主流だったが、分割損もあり、設計と施工を一体にするほうがメリットがあるという結果もあるようだ。可能な限りコストダウンできるような手法を検討すべき。</p> <p>○ 新市庁舎に盛り込むものの優先順位を考え、限られた予算の中でどこにお金を使っていくかという観点が必要である。</p> <p>○ クラウドファンディングやネーミングライツなど、資金調達については様々な方法が考えられるので、リースペースやホールなど、施設の一部などに活用できるものを検討してはどうか。</p> <p>(5) 新市庁舎の整備エリア（(5) (6)を入れ替え）</p> <p>○ 第4の選択肢として、現在機能していない建物や土地を改めて見直し、そこを再生させるような都市のあり方や、その象徴としての市役所もあるのではないか。</p> <p>○ エリアを検討するには、評価軸を増やす必要がある。市では、(仮称)内丸プランなどまちづくりに関する計画が同時進行しているが、他のそれぞれの計画にとって、どのように関連するか、将来の市にとってよいものになるのかといった視点の比較資料があると判断しやすい。</p> <p>○ 整備エリアの検討について、市民への説明根拠となる評価が必要であるが、見方や立場によっても変わらない評価項目とすることや客観的な証拠となるデータが必要である。</p> <p><エリア選定についての意見></p> <p>○ 整備エリアの比較検討は、土地取得や面積など、コスト面だけでなく、今後の市のまちづくりの点で評価すべきであり、まちづくりの将来ビジョンを踏まえた評価横目があるべき。</p> <p>○ エリアを考える上で、建ぺい率と容積率も関係する。今と変わらない建ぺい率、容積率であれば、また、庁舎の分散が始まるのではないか。</p>

意見書（案）	発言要旨
<p>である。</p> <p>◆ 防災・災害対策の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 木造建築とする場合は、洪水浸水想定区域外での整備が望ましい。 ○ 有事の際の参集や要配慮者の避難対応のため、洪水浸水想定区域外での整備が望ましい。 ○ 防災拠点や災害対策本部といった機能が、庁舎の浸水によって損なわれることのないよう整備されたい。 ○ 過去の災害時の経験を踏まえ、建物被害だけでなく、通信手段が遮断された場合などの関係機関との連携についても、エリア選定の評価軸の一つとするべきである。 ○ 市庁舎における防災機能の課題は、建設場所の選定や技術的な対応等により、解決や一定の対策を講ずることができることを考慮されたい。 <p>◆ 交通アクセスの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各エリアについて、交通アクセス性を比較評価できるデータが必要である。 ○ 遠方からの来庁者のために、必要な駐車場を整備できるかという観点での検討が必要である。 ○ 公共交通のみではなく、高速道路からのアクセス性についても比較検討されたい。 ○ 新市庁舎が整備された地域は、バス路線の充実等が図られると史料されるため、「交通アクセス」の評価は、現状ではなく立地後に向上する利便性を見越して行うべきである。 <p>◆ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 歴史ある盛岡をイメージできることが大切である。 ○ 歴史文化の次世代への継承は、市庁舎の位置に関わらず、可能である。 ○ 他の自治体において、整備エリアを比較検討した事例があれば、その比較項目も参考にされたい。 ○ 新市庁舎整備のために活用可能な市有地があっても、条件により必ずしも優位とはならない。 	<p>◆ 防災・災害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 洪水浸水想定区域がポイントになると思う。市産材活用の観点から言うと、木材は水を吸うため、浸水想定区域外での整備が望ましい。また、有事の際にも参集や弱者の避難対応などを考えると洪水浸水想定区域内はネックになる。 ○ 洪水浸水想定区域内に立地した場合、防災拠点や災害対策本部といった機能が、庁舎の浸水によって損なわれるのは問題であり、有事の際の初動に影響が出ると思う。 ○ 建物だけにフォーカスが当たっているが、通信が遮断された震災当時の反省をしながら、今ならどういう形で多方面の連携や復旧活動をやっていくのかという想定は、エリア選定の評価軸になる。 <p>◆ 交通アクセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「自動車によるアクセス性に優れている」、「他エリアに比べ、公共交通機関によるアクセス性が劣る」といった記述があるが、アクセス性に優れているというデータ、あるいはアクセス性が劣っているデータを示してほしい ○ 遠方から来庁する人にとっては駐車場を整備できるかということも必要な観点である。 ○ 市民会議では、県都という視点もあったので、高速道路についても盛り込んだ方がよい。 <p>◆ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ エリアはまちづくりを考える上で非常に重要である。 ○ 他の自治体においても、整備場所を比較検討していると思うので、評価軸を参考にするとよい。 <p><各エリアについての意見></p>

意見書（案）	発言要旨
<p>(7) 現市庁舎の跡地活用 新市庁舎の整備に関する意見のほか、新市庁舎が移転した場合の現市庁舎の跡地活用に関する意見がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 現市庁舎が移転した場合の跡地については、（仮称）内丸プランにおいて、中津川などを含め、現在の景観を崩さずに、市民が必要とする機能を持った活用方法を検討されたい。 ○ 跡地については、他のまちづくりの計画との整合性や調和を図りながら、そこに市庁舎が何十年もあった歴史を踏まえた適切な保全や活用を検討すべきである。 <p>(8) 今後の進め方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 内丸エリアについて <ul style="list-style-type: none"> ○ 歴史ある盛岡のイメージを大切にしたい。 ○ 市庁舎は内丸にあった方がアクセスも良く便利である。 ○ 川をシンボルとして、周辺には歴史文化が集まっている現庁舎の場所が理想ではないかと感じている。 ○ 盛岡城址を中心に歴史文化を次世代へつなぐという役割を市庁舎にもという意見もあったが、市役所の場所にかかわらず、歴史文化は次世代へとつながっていくものではないか。 ◆ 盛岡駅西エリアについて <ul style="list-style-type: none"> ○ 市所有の土地があるというが、実際には駐車場の整備が前提条件となっているため、優位性があるとは言えないのではないかと。 ◆ 盛南エリアについて <ul style="list-style-type: none"> ○ 盛南エリアに新市庁舎が整備される場合は、バス路線が少ないため、路線変更など根本的に見直されると思う。 <p>(7) 現市庁舎の跡地活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本庁舎跡地については、現在策定作業が進められている（仮称）内丸プランの中でも検討されたいということによいのではないかと。 ○ 内丸は盛岡市の中でもシンボリックな地区であるため、ふさわしい土地利用を考えてもらいたい。 ○ 岩手山や中津川など、現在の景観を崩さずに、市民が必要とする機能を持った跡地活用がいいのではないかと。 ○ 跡地について、他のまちづくりの計画との整合性や調和を図りながら、活用を検討すべき。また、そこに市庁舎が何十年もあったことを残すことも考慮すべきである。 ○ 跡地は、新渡戸稲造の胸像や方長老ゆかりの庭石などを生かした、中津川に親水性を持たせた緑地的なものにするのがよい。 <p>(8) 今後の進め方</p>

意見書（案）	発言要旨
<p>新市庁舎整備に当たっての進め方について、意見がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 整備方針を決定する際には、広く市民の意見を聴きながら、プロセスや判断の根拠等について丁寧に説明し、市民の理解を得る必要がある。 ○ 市民会議や本懇話会において意見のあった様々な課題については、新市庁舎の整備を待たずに対応できることは対応すべきであり、そうしたことが、新市庁舎整備を契機とした盛岡の発展や向上につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市民会議の報告では、エリア選定の経過を、きちんと説明してほしいという話があったが、エリア選定に限らずすべて説明してほしいというのが市民の意見だと思うので、議論を積み重ねた結果だということを見せていくべきだと思う。 ○ 新庁舎建設の前からキッズスペースを導入して、モニタリングした方がいいのではないか。 ○ 新市庁舎が建つまで時間があるので、現状のままではなく、ソフト面の向上など、現市庁舎でもできるところからやるべき。